

お互い同士ゆるし合おう

滝野 正三郎

なかまはずれ

わたしたちは、自分たちの中で、もし、うらぎったり、悪いことをした人がいれば、すぐになかまはずれにしてしまいます。その人が、自分からあやまらないかぎり、なかまはずれにしたままにします。

なかまはずれにされた人は、とてもさびしくなるので、反省して、みんなにあやまるようになっていきます。みんなも、それを期待していると思います。

悪いことをしたときには、神さまにあやまるだけではたりません。いくら神さまにごめんなさいとあやまっても、みんなにあやまらなければ、みんなはなかまに入れてくれません。

みんなにあやまらないといけないことがあるか考えて下の空白に書いてください。

できるだけ早くあやまって、ゆるしてもらうようにしましょう。今まで、みんなから、なかまはずれにされていた人も、みんなのなかまに入れてもらえるかもしれせん。

ゆるしの秘跡

教会では、罪をおかした人を、どのようにしてうけいれているのでしょうか。罪をおかしたら、ただ神さまにだけあやまればいいのか。神さまは、みんなが心からあやまれば、罪をゆるしてください。でも、神さまにあやまっても、教会のなかまにあやまったことにはなりません。わたしたちは、罪をおかすと、教会からなかまはずれにされます。

ですから、教会のなかまにもう一度いれてもらえるように、みんなにたのまないといけません。そのために、教会では、ゆるしの秘跡がおこなわれています。はじめのころ、イエスに従った人たちは、どのようなようにしていただのでしょうか。はじめのころは、洗礼をうけてキリスト者になると、もう罪をおかすはずがないと考えていました。ただ例外として、一生に一度だけ教会のみんなのいるまえで罪を告白して、みんなからゆるしてもらえる機会が与えられていました。ふだんは、おたがいにゆるしあったり、人に対するよい行いなどによって、ゆるされてきました。

たとえば、迫害がおこって、信仰からはなれた人がもう一度教会のなかまにいられてもらいたければ、みんなのまえで、罪を告白し、ゆるしてもらいました。その人も、教会のなかまとしてうけ入れられ、みんなといっしょに信仰を強めることができるようになるのです。

きょうの福音の中でも、イエスは、弟子たちに対して、何度でも兄弟をゆるすように求めていきます。

ただ、教会のなかまにあやまるといっても、なかなか

みんなのまえで言えないことが多いです。そこで、ひとりひとりが司祭のところへ行行って、罪を告白し、ゆるしのことばをもらいます。でも、司祭は、ただ教会のなかまの代表として、なかまに入れてあげてあげて宣言するのです。

このように、わたしたちは、神さまにあやまるだけでなく、教会の仲間にも、みんなにめいわくをかけたことをあやまって、ゆるしてもらわなくてはなりません。また、心からあやまっている人を、ゆるしてあげて、なかまに入れてあげるようにしましょう。

(京都教区司祭)

